

中国国立図書館における典拠データベースの展開

孫 倍欣

中国国家図書館研究図書館員，中国図書館学会副会長

翻訳 三浦太郎（東京大学大学院教育学研究科）

友人ならびに同僚の方々へ。

本日，ご来場の皆様と典拠コントロールについて議論する機会が得られ，中国国家図書館（National Library of China: NLC）のご紹介と，NLC における典拠データベースの展開についてお話しできることを光栄に思っております。

1 NLC：はじめに

中国国家図書館（NLC）の前身は清王朝時代の首府図書館であり，これは 1909 年 9 月 9 日に設立され，1912 年 8 月 27 日から一般に公開された。1916 年，首府図書館は中国出版物の法定納本を受けるようになったが，このことは首府図書館が国立図書館として機能した側面を示している。1928 年 7 月に首府図書館は北平国立図書館と改称され，中華人民共和国の建国後 [1949 年]，北平国立図書館は北京図書館へと名称を変えた。先ごろ 1998 年 12 月 12 日になって，北京図書館の中国名称を「中国国家図書館」に変えることが全国人民代表大会で可決された。同館は分館 4 万平方米を含めて 14 万平方米の広さをもち，建物の延床面積は 17 万立方米に及んでいる。

NLC は総合的研究図書館であるとともに国の出版物の包括的保存図書館であり，知識・情報を収集，整理，保存，研究，利用提供する機能を果たしている。また，NLC は国家的な書誌レコード・センターであり，かつ図書館情報ネットワークや図書館情報学の研究開発の中心でもある。NLC のサービス対象は，中央政府，上位の研究者，各種の学校や会社，公衆である。NLC では，中国政府に代わって諸外国と文化的な協定を結ぶことや，世界中の図書館・文化施設と資料交換や連携を促進することにも責任を負っている。

NLC のコレクションは膨大で多岐にわたり，なかには 700 年前の南宋王朝の時代に宮廷図書館で保存された蔵書もある。2001 年の図書館統計によると，NLC には 2,300 万巻 / 点の資料が所蔵されており，この数字は世界の国立図書館で 5 番目に当たり，アジアでは第 1 位である。このうち 260 万巻 / 点は貴重書，銘刻文，石刻本，古地図，中国少数民族の言語で書かれた図書，有名な著者の原稿，家系図，地方史料などである。そのなかには 3,000 年前の周王朝の時代に獣骨や亀甲に刻まれた銘刻文 35,000 点

が含まれている。中国で刊行された全出版物を収集する方針から、NLC は世界で最も多く中国語出版物を所蔵する図書館となっている。NLC の全蔵書のうち 50% は 115 種類の外国言語で書かれた出版物であり、NLC は中国で最大の外国語出版物を所蔵する図書館である。また、NLC には特殊コレクションとして、有名な著者の書いた原稿、歴史上の革命に関する文書、中国人の博士号学位論文などが集められている。NLC は国際連合（United Nations: UN）の寄託図書館のひとつであり、世界中の 117 の国と地域にある 692 館の図書館・研究機関と出版物を交換する関係にある。情報メディアの進展にともない、NLC では多くの電子出版物も所蔵している。毎年、NLC の蔵書は 60 万～70 万巻／点の割合で増加している。

2 NLC：国家的な書誌レコード・センター

これまで NLC は国家的な書誌レコード・センターとしての機能を果たし、中国全国書誌や全国総合目録、それに NLC の各コレクションの目録を刊行してきた。国家的な書誌レコード・センターとしての機能を実際に引き受けているのは NLC の収集・目録部である。これは NLC で最大の部局であり、職員は 200 人を数える。その職務は、中国語および外国語で書かれた図書の収集・目録作成、国際的な資料交換、全国総合目録の編集、印刷体書誌の作成、さまざまな書誌データベースの管理である。また、収集・目録部は目録規則や多様な規準の開発にも携わっている。

1997 年に NLC は「オンライン図書館目録センター」を設立し、そこで、全国規模のコンピュータ目録の組織、ネットワーク上における総合目録の管理、書誌レコードおよび文献情報資源の共有促進を図っている。現在までにセンターには 600 以上の参加機関・利用者が登録し、同時に広東、広西、四川などの省や自治区に支部センターが設立されている。センターで提供されるサービスはさまざまである。書誌的なプロダクトとしては、「中国語図書（1949 年以降出版分）書誌データベース」、「中国人博士号学位論文データベース」、「中国語図書（1911-1949 年）書誌データベース」、「西洋言語図書書誌データベース」、「定期刊行物書誌データベース」、「貴重書書誌データベース」などが挙げられる。こうしたプロダクトは FD、CD、電子メール、インターネットなどの形式で頒布される。MARC レコードの交換や共有をしやすいするため、オンライン図書館目録センターでは専門家・専門職を組織し、「中国 MARC フォーマット・マニュアル」の改訂や、「典拠および参照記入のためのガイドライン」に基づく「典拠データ記入の記述規則」の更新、「UNIMARC / Authorities（典拠ユニバーサル・フォーマット）」に基づく「中国 MARC 典拠フォーマット」（試験版）の改訂などの作業を進めている。またセンターでは、参加機関・利用者のためにセミナーを行ったり多様な訓練コースを開設したりしている。

長年のあいだ、NLC は編集と開発を続けてきた。目下のところ、最も大規模なプロダクトは、中国語図書 MARC データベースと典拠コントロール・データベースである。中国語図書データベースは、UNIMARC をもとに作成された「中国 MARC フォーマット」（CNMARC と呼ばれる）と国際標準書誌記述（ISBD）にしたがって編纂されている。UNIMARC のあらゆる規則は CNMARC に吸収されており、そのフィールドとサブフィールドがすべて CNMARC に備えられた。このため、CNMARC と UNIMARC は完全に一致している。1996 年、中国文化省によって CNMARC は文化的専門規準として承認された。1949 年以来、NLC で編纂された中国語図書 CNMARC レコード

の数は 110 万件を超える。

3 典拠コントロール・データベース

典拠コントロールは書誌検索システムのなかで重要な機能を果たしている。書誌的データの完全性，不変性，検索効率性を保証するために，われわれは次のような典拠コントロール作業を実行している。

(1) 検索の完璧さを目指し，かつドキュメントの索引付けによって起こる要求に応えることを目的として，われわれは「中国図書館分類法」と「中国語件名シソーラス」に基づきながら「中国語分類件名シソーラス」を編纂し，さらに「分類件名シソーラス関連表」をつくり，中国語分類件名シソーラス・データベースを構築した。われわれは 80 万件のデータを集め，データベースに 12 万件のレコードを編纂している。(2) 典拠コントロールを実現するため，われわれは「中国 MARC 典拠フォーマット」(試験版)と「典拠データ記入の記述規則」を編纂し，それらを典拠データベースの構築に役立てている。(3) 中国古著者データベースでは，古代から 1911 年までに存在した中国人著者のうち，世代を超えて読み継がれてきた個人や人びとを収めている。4 万点以上が収蔵される。

4 万人を超える古い著者の典拠レコードを作成するのは複雑で，とても骨の折れる仕事である。近年になって，貴重書・特殊コレクション部で 11,000 レコードが編纂された。各レコードには，著者名，生没年月日，王朝，出生地，称号・筆名，家柄，科挙試験の席次，官吏としての地位，主な行状，代表的な著作が載せられている。(4) 現代の著者典拠データベースをつくること。1912 年以降に著作を発表した著者や著者集団の典拠レコードを主に収めている。各レコードには，著者名(本人の名前，筆名)，生没年月日，国籍，著作のタイトル，性別，出生地，身分などが載せられている。

さて，このデータベースには著者名，著者集団名，タイトル名など合わせて 32 万 5,900 を超えるレコードが存在する。このうち 2001 年に 4 万レコードが編纂された。データの情報源は次の 2 つである。

- ・ハンドブックやネットワーク情報資源。
 - ・書誌レコード。書誌レコードからいくつかの関連フィールド群を得る。
- これらに基づいて著者名典拠レコードを編纂している。

現在，NLC における典拠コントロールの問題点は，目録システムにつながった典拠コントロール・システムがないことである。目録職員だけがオフラインで典拠データベースを使うことができるため，効率的なシステムとはいえない。しかし今年，NLC では新しい図書館管理システムを導入する予定となっており，その新システムで典拠コントロール機能を実現するつもりである。

新旧の著者ファイルの開発を迅速に行うため，われわれは国の内外でさまざまな協力関係を模索している。そして，できる限り早くこの仕事を実行し，その成果を世界中の同僚たちと共有するために，最大限に努力していく所存である。

お聞きいただき，感謝申し上げます。

【参考文献】

- 1 Li Zhi Zhong: A Brief introduction to Chinese Ancient books Database, Journal of the National Library of China, No.1, 1992
- 2 Sun Beixin: Technical Analysis for the Data Resources in the National Library of China, 1998
- 3 Sun Beixin: Reading Promotion: The Role of National Library of China, 1999
- 4 Zhou Shengheng, Chinese Name Authority in Chinese, Korean and Japanese Languages, 2001